

学級活動学習指導案

題材名「見えない大変さについて知ろう：聞こえづらさ」（２）—イ

令和5年10月 4年 指導者 金井智之

I 題材の構想

1 題材観

小学校学習指導要領解説特別活動編の学級活動「（２）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の「内容イ よりよい人間関係の形成」には、「『互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲良くしたり信頼し合ったりして』とは、児童一人一人の個性を尊重し、障害の有無や国籍など様々な違いにかかわらず他者と協働する力を育むことを示している。」とある。小学校の中学年においては、誰に対しても分け隔てなく接することの大切さを理解できるようになっている一方、自分と気の合う仲間を優先することに終始し、親しくない相手に対して不公平な態度で接してしまうことも少なくない。特に、学級内で忘れ物が多かったり、落ち着かない様子を見せたりするなど、自分と違いがある相手に対しては自分から壁をつくってしまうことがある。その原因の一つとして考えられることは、相手の置かれている立場を知らないということが考えられる。

本題材では、発達障害（見えない大変さ）の人の「聞こえづらさ」について理解をした上で、「見えない大変さがある人も自分との大きな違いはない」と考えられるようにしたい。そのために、まずは事前に「聞くこと・書くこと・話すこと・読むこと」の四つの観点における自分の得意・苦手をグラフに書いて可視化する。そして、聴覚過敏の「聞こえづらさ」を類似体験する活動を通して発達障害の理解を実感を伴って深めた後、「聞こえづらさ」がある人と、自分たちの得意・苦手のグラフを見比べて話し合う。ICT等を活用して得意・苦手のグラフを共有したり、話し合いを通して多様な考えに触れたりすることで、「見えない大変さの有無に関係なく、誰にでも得意なこと・苦手なことがある」ということに気付き、その上でよりよい人間関係を形成しようとする意欲を高められると考え、本題材を設定した。

2 研究との関わり

これからの共生社会を担う子供たちを育成する上で、小学校段階で多様な個性を尊重し合い、互いに支え合っていける資質・能力を身に付けることが必要である。支え合いというのは、一方が支える側、もう一方が支えられる側という関係ではなく、互いが尊重し合い、それぞれが能力を発揮できる関係で生まれるものである。本研究では、よりよい人間関係の形成について考える学級活動と、目に見えない大変さがある児童が登場するオリジナル教材を用いた道徳科の授業を中心とした授業プログラムを活用する。本時（学級活動）で、「障害の有無に関係なく、誰にでも得意や苦手がある」ということに気付き、その気付きを基にして、事後にオリジナル教材を用いた道徳科の授業を行うことで、だれとでも個性を尊重し合おうとする道徳的心情が養えると考える。

3 題材の目標

	目 標	児童の実態
知識及び技能	・よりよい人間関係の形成に向けて、自分とは異なった特性がある他者のことを知ることの意義を理解し、よりよい生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けることができるようにする。	・自分と親しい間柄の友達との交流を優先する児童がいる。
思考力、判断力、表現力等	・よりよい人間関係の形成に関する諸課題に気付き、解決方法などについて理由を比べながら話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して、実践することができるようにする。	・人間関係の形成に向けての問題点に気付いている児童はいるが、解決に向けて考えられている児童は少ない。
学びに向かう力、人間性等	・自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題の解決に取り組み、他者と理解し合ってよりよい人間関係を形成しようとする。	・自分とは異なった個性をもつ他者のことを知り、理解しようとする児童は少ない。

4 評価規準

知識・技能	・よりよい人間関係の形成に向けて、自分とは異なった特性がある他者のことを知ることの意義を理解し、よりよい生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。
思考・判断・表現	・よりよい人間関係の形成に関する諸課題に気付き、解決方法などについて理由を比べながら話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して、実践している。
主体的に学習に取り組む態度	・自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら意欲的に課題の解決に取り組み、他者と理解し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

5 指導及び評価、ICT活用の計画（全1時間）

過程	時間	■ねらい □学習活動 ★ICT活用に関する事項	知	思	態	◆評価項目＜方法（観点）＞ 〔記〕：記録に残す評価 ○指導に生かす評価 ●評定に用いる評価
事前の活動	適宜	■これまでの生活を振り返り、人間関係形成における問題を見いだす。 □聞く・書く・話す・読むの四つの観点について、自分の得意・苦手をグラフに記入する。			○	◆自分の生活を進んで振り返ろうとしている。＜行動観察(態①)＞
本時の活動	第一時 本時	■見えない大変さの有無に関係なく、誰にでも得意や苦手があることに気付き、よりよい人間関係の形成に向けた自分の考えをもつことができる。 □発達障害の「聞こえづらさ」を類似体験する。 □「聞こえづらさ」がある人と自分たちの得意・苦手のグラフを見比べて気付いたこと話し合う。【★共有】	○	○		◆見えない大変さの有無に関係なく得意や苦手は誰にでもあることに気付き、よりよい人間関係の形成に向けた考えをもっている。 ＜ワークシート（知①・思①）＞
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【本時のめあて・課題・見通し等】 見えない大変さについて知り、よりよい関係を考えよう。</p> </div>						
事後の活動	適宜	■どのような相手でも分け隔てなく公平に接しようとする心情を定着することができる。 □自分が立てた意思決定について、振り返る。			●	◆授業プログラムの活動で考えたことを意識して、生活している。 ＜行動観察（態①）＞

II 本時の学習

- ねらい 発達障害の「聞こえづらさ」を類似体験する活動と、「聞こえづらさ」がある人と自分たちの得意・苦手のグラフを見比べて気付いたことを話し合う活動を通して、見えない大変さの有無に関係なく、誰にでも得意なことや苦手なことがあることに気付き、よりよい人間関係の形成に向けて自分の考えをもつことができる。

2 展開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 予想される児童の反応〔S〕	◎研究上の手立て ○指導上の留意点
-------------------------	----------------------

	◆目指す児童の姿（観点）
<p>1 事前に記入した得意・苦手グラフを参考に、本時のめあてをつかむ。（5分）</p> <p>○グラフを共有して、それぞれ得意なこと苦手なことがあることを確認する。【★共有】</p> <p>S：自分は、○○が得意だけど、△△は苦手だな。</p> <p>○見えない大変さにより、とても苦手なことがある人があることを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><めあて></p> <p>見えない大変さについて知り、よりよい関係を考えよう。</p> </div>	<p>○得意なこと・苦手なことは人によって様々であることが実感できるように、事前に記入したグラフをICTで共有する。【★一覧表示】</p> <p>○本時の課題について主体的に取り組めるように、見えない大変さとはどのようなものかを児童と話し合いながら、相手のことを理解していないと、相手を傷つけてしまう可能性があることに触れ、児童の考えをつないでめあてを設定する。</p>
<p>2 「聞こえづらさ」の類似体験をする。（15分）</p> <p>○「通常の音声」を聞き、内容を答える。</p> <p>S：内容がよく分かった。</p> <p>○「聞こえづらい音声」を聞き、内容を答える。</p> <p>S：いろいろな音が聞こえていて、話が聞きづらかった。</p> <p>○聞こえ方の違いを全体で共有し、「聞こえづらさ」について話し合う。</p> <p>S：こんな大変さがある人があるのだな。</p> <p>S：その人が努力をしてどうにかなる問題ではないな。</p>	<p>◎聴覚過敏の「聞こえづらさ」をより実感できるように、日常生活に近い設定（朝の会）で「通常の音声」と「聞こえづらい音声」を聞き比べて内容を答えさせ、聞こえ方の違いを全体で共有する。</p> <p>◎「聞こえづらさ」がある人への気持ちがもてるように、「聞こえづらさ」がある人が自分たちと同じ授業を受けている場面を想起させる。</p> <p>○児童それぞれの考えを共有できるように、学級全体で話し合いながら、出てきた考えを板書する。</p>
<p>3 「聞こえづらさ」がある人と自分たちの得意・苦手グラフを見比べて、気付いたことについて話し合う。（20分）</p> <p>○自分の考えをワークシートに書く。</p> <p>S：「聞こえづらさ」がある人のグラフは、自分たちのグラフとあまり違いはない。</p> <p>○自分の考えを基に、グループ・全体で話し合う。</p> <p>○「聞こえづらさ」がある人の他にも、見ることや考えることに外見からは分からない大変さがある人があることを知る。</p> <p>○特定のことに大変さがある人と、自分との違いについて考える。</p> <p>S：「聞こえづらさ」がある人には苦手なことはあるけど、自分にも得意なことや苦手なことがあるし、みんなと同じように接しないといけないな。</p>	<p>◎障害の有無は関係なく、得意・苦手は誰にでもあるということに気付けるように、「聞こえづらさ」がある人と自分たちのグラフの相違点を話し合うよう促す。</p> <p>○自分の考えをしっかりともち、多様な考えを共有できる話し合いが行えるように、個人で考える→グループで共有→全体で共有の順で話し合いを行う。</p> <p>○学級全体を「大変さがあっても、特別なことではない」という考えがもてるように、「聞こえづらさ」がある人も、自分たちも苦手なことがあるという考えの児童を意図的に指名する。</p> <p>◎共生について考えるきっかけとなるように、見えない大変さがある人を特別視することの是非について問い掛ける。</p> <p>◎「配慮しつつ特別視しない」という考えに収束するように、「自分に大変さがあつたらどうされたいか」を問い掛ける。</p>
<p>4 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。（5分）</p> <p>○本時で考えたことを基にして、今後の自分についてワークシートに書く。</p>	<p>○児童の言葉を使ってまとめられるように、見えない大変さがある人に寄り添った考えが書</p>

	<p>けている児童を意図的に指名する。</p> <p>◆目指す児童の姿（思）</p> <p>ワークシートの記述から、「聞こえづらさ」がある人への理解を深めつつ、見えない大変さの有無に関係なく得意なことや苦手なことは誰にでもあることに気付き、よりよい人間関係の形成に向けた自分の考えをもつことができたかを見取る。</p>
<p>〈振り返り〉</p> <p>S：見えない大変さがある人がいることが分かった。</p> <p>S：苦手は誰にでもあるから、特別あつかいにならないようにしたい。</p>	

3 板書計画

<p>㊟見えない大変さについて知り、よりよい関係を考えよう。</p> <p>○体けん活動をしてみて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな音が聞こえると集中できない ・何を言っているのか分からなかった ・大変だということが分かった 	<p>○グラフを見比べてみて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聞こえづらい人」は、「聞く」のグラフがへこんでいる ・自分たちのグラフも、でこぼこしている人がいて、にている <p>㊤だれにでも苦手はあるのだから、だれにたいしても特別あつかいはしない。</p>
--	---

※大型モニターに、事前に記入した得意・苦手グラフを表示する。

Ⅲ 備 考

1 他教科等（道徳、自立活動も含む）との関連



<p>次時 道徳</p> <p>ねらい：どのような相手でも分け隔てなく公平に接しようとする心情を育てる。</p>
--

2 参考文献、著作権関係等

- (1) 文部科学省（2017）『小学校学習指導要領 特別活動編（平成 29 年告示）解説』
- (2) 群馬県教育委員会（2019）『はばたく群馬の指導プランⅡ』
- (3) 高橋あつ子（2023）「感覚の視点からのアセスメントと支援」『学校教育相談』 37 巻 2 号 pp64-69
- (4) 水野智美（2016）『はじめよう！障害理解教育』 図書文化
- (5) 文部科学省（2022）『生徒指導提要』